

性格として持つことは今後の学会の発展にとってさらに大事な要素である。

一方、役員制度についても、見直すべき問題が多々あって、各種委員会への会員の関わり方や評議員の在り方など、広く会員に参加していただく方策を考えるべき時期でもある。例えば、委員会の委員長には、必ずしも理事でなくとも選任されうるとか、評議員の数をもっと多くして、学会の山積する諸問題に対して幅広い観点から諮問が行えるようにすると

か、現状を改善した方がよいと思われる。これらの点については、会員の声を聞きながら、慎重に検討していく予定である。

学会の基本的目的である気象学の発展という趣旨は不変で重要であるものの、社会や学界が気象学に求める課題は多様化している。こういう情勢は会員の皆さんはよく御承知のことと思う。学会は、こうした変化に鈍感であってはならないと思っている。

第10回日産科学賞の候補者推薦募集と学術研究助成（日産科学振興財団）のご案内

1. 日産科学賞

- (1) **趣旨**：若手・中堅研究者の中から、特に優れた業績を上げ、さらに今後発展の可能性が大である方を表彰することを通して、学術文化の向上発展に貢献することを目的とする。
- (2) **推薦基準**：自然科学分野（人文・社会科学分野との複合領域を含む）において、以下の卓越した研究業績をあげ、さらに今後の発展が期待されるわが国の公的研究機関に所属する新進気鋭の研究者。
 - a. 学術研究における重要な発見
 - b. 新しい研究分野の開拓
- (3) **賞の内容**：賞状、金メダル、副賞として賞金500万円。授賞人数は原則1名。

この賞の応募には**学会の推薦が必要**です。日本気象学会では、7月末ごろに「学会外各賞推薦委員会」を開催して推薦者を選考する予定です。その際の参考にするため、推薦するにふさわしい方をご存じでしたら、簡単な推薦理由を添えて2002年7月19日までに「日本気象学会 学会外各賞候補者推薦委員会」あてお知らせ下さい。

2. 学術研究助成

この助成については、今回から申請者が財団へ直接応募することになりました。助成の詳細と申請用紙については「<http://www.t3.rim.or.jp/~at02-nsj/>」をご覧ください。締切は2002年8月30日（金）必着です。